



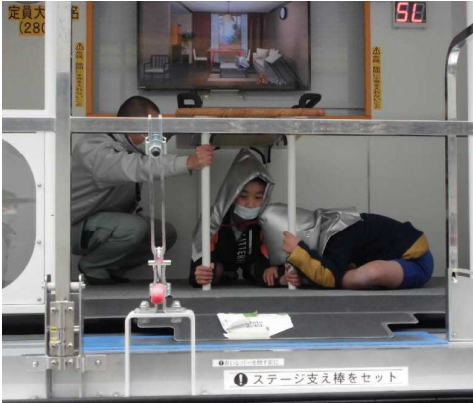
“ 振り返り

天城と我れと 見交わせる

峠も同じ 天城<sup>やまなみ</sup>山脉 ”

与謝野 寛 （船原峠にて詠う）

## 自分の命を自分で守れる子に…！



【 ↑ 起震車体験 (1/18・水) 】

早いもので、2月も後半にさしかかり、降り注ぐ明るい陽射しに、春の訪れを感じさせられるようになってきました。

さて、先般トルコとシリアで発生した巨大地震では、死傷者が東日本大震災を上回るほどの甚大な被害をもたらしています。連日のように報道される映像からは、遠い外国の出来事とはいえ、地震国日本に暮らす私たちにとっても他人事とは思えない緊張感を抱かずにはられません。

そのような中、天城小学校では「起震車体験(1/18)」と「予告なし地震避難訓練(2/16)」を実施し、防災意識を高めました。予告なしの避難訓練では、昼休みの自由な時間に

突然の訓練放送で訓練を開始しましたが、子供たちは大人の指示を頼らず自分たちで判断し、それぞれの場所から素早く運動場へ避難できました。

本校では、年間6回の訓練を下記のように企画し、想定を変えて様々な取組を行ってきました。

- ① 地震避難訓練 (5/13) …授業中の地震を想定。各教室から教員の指示で避難。
- ② 引き渡し訓練 (6/1) …広域避難場所の狩野グラウンドまで移動し、保護者へ引き渡し。
- ③ 不審者対応集会 (10/20) …不審者の侵入を想定し、合い言葉の放送で避難を指示し、体育館へ避難。
- ④ 火災避難訓練 (11/17) …授業中に火災発生。教員の指示で運動場に避難。
- ⑤ 起震車体験 (1/18) …県より起震車を借用し、全校児童が震度7の地震を体験。
- ⑥ 予告なし地震避難訓練 (2/16) …昼休みの時間帯に、予告なしの地震避難訓練。

今後とも、自分の命を自分で守れる子に育っていくことを願い、訓練を重ねてまいります。

## 学校関係者評価委員会を開催しました…！



【 ↑ 学校関係者評価委員会 (2/17・金) 】

去る2月17日(金)、学校評議員の皆様とPTA会長をお招きして、学校関係者評価委員会を開催しました。

学校からは、1年間の教育活動の振り返りや学校評価アンケートの集計を説明し、委員各位からご意見をいただきました。「挨拶は人生のあらゆる場面で必要な大切なスキルである。」、「学校で子供たちが読書活動を頑張っている様子を、しっかり家庭に伝えていくとよい。」、「コミュニティ・スクールの取組がとても充実しているので、校外へもそれらの活動を発信してほしい。」等々、いただいた多くの貴重なご意見を、次年度の学校運営に反映していきたいと思っております。 裏面もご覧ください

# 3月の行事予定

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、行事等は変更する場合があります。

日	曜	給	行 事	日	曜	給	行 事
1	水	○	5時間授業 14:10下校 感謝の会	17	金	× 5年 給	特別日課 2時間授業 (1～5年) 修了式 10:20下校 (1～4年) 5・6年卒業証書授与式 15:30下校
2	木	○	5時間授業 14:40下校 <b>西川SC勤務日</b> 6年生とたてわり遊ぶ会 (赤)	18	土		春季休業 (～4月6日)
3	金	○	5時間授業 14:40下校 フッ素洗口	19	日		
4	土			20	月		
5	日			21	火		春分の日
6	月	○	委員会 地域あいさつ運動	22	水		PTA会計監査
7	火	○	卒業式練習① 清潔調べ 6年奉仕作業	23	木		
8	水	○	通学地区会・集団下校	24	金		
9	木	○	卒業式練習② 4年福祉授業 (ダウン症) 6年生とたてわり遊ぶ会 (白) <b>西川SC勤務日</b>	25	土		
10	金	弁 当	卒業式総練習 フッ素洗口 <b>柏木SSW勤務日</b>	26	日		
11	土			27	月		
12	日			28	火		
13	月	○	代表委員会	29	水		
14	火	○	家庭読書の日 清潔調べ	30	木		
15	水	○		31	金		
16	木	○	特別日課 4時間授業 13:20下校 (1～4・6年) 卒業式準備 (5年) 15:30下校 <b>西川SC勤務日</b>				

## 全ての子どもたちが幸せに

「特別支援教育」という言葉をご存じですか？文部科学省によると、「特別支援教育」とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うというものです。

文部科学省の調査では、発達障害の可能性があり特別な支援が必要な小中学生は、通常の学級に8.8%、11人に1人程度在籍していると推計されています。

特別な支援を必要としている子どもがたくさんいるから、特別支援教育は、喫緊の重要案件であると受け取られがちですが、**教育とは、障害があるなしにかかわらず、こまり感をもっている全ての子どもたちがよりよくなるために支援するものである**ので、**特別支援教育は普通の当たり前**のことです。

しかしながら、子どもたち自身が、読み書きや計算など学習面の困難さや、不注意や対人関係を築きにくいといった行動面の困難さを感じていたり、御家庭の皆様が、お子さんが急に感情を爆発させるなど衝動的で育てにくいと悩んでいたりする状況があります。

そのような状況を心配して相談すると、「私も子どもの時はそうだったから大丈夫」との答えが返ってくる場合があります。そうかもなあと思うのですが、今は昔と違って、**学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーという心理教育的援助の専門家がいます**。

**子どもたちを支援するための第一歩は、子どもたちのこまり感を分かってあげること**だと思います。ぜひ、**専門家を活用して、子どもたちが漠然と感じている「なぜかうまくいかないんだよ」「どうしてか、いつもこうなっちゃうんだよ」等の原因を明らかにし、心穏やかに学習や生活に取り組めるようにさせてあげたい**です。年度末を迎え、また春が来ます。**全ての子どもたちが幸せになれるように**。

(文責：鈴木昭則)